

4年生道徳だより

教材名：「あなたの時間にいのちをふきこめば」

命を大切にするとはどういうことを聞くと、「病気にならないこと」「ケガをしないこと」「自分から死のうとしたりしないこと」と答えた子どもたち。そこで、命を大切にするということが、その時間を延ばすだけでなく、その命を何のために使うかという「命の質」でもあることに気づき、限りある命を大切にしようとする思いを深めることをねらいとして、みんなで話し合い、考えました。

内容について

命に向かい続けた医師、日野原重明氏。日野原先生は、2度大きな病を経験し、病気をしている人のつらさに心から共感し医者を目指す。医者になってからは、飛行機に3日間も閉じ込められるという事件にあり、死を覚悟する。このような経験から、自分の残りの人生を自分以外のことにはげようと考える。その活動の1つが「命の授業」。全国約230校をたずね、メッセージを伝える。



日野原重明先生

君たちは自分の「いのち」をどう使うかを考えよう。あなたがもっている時間は、あなたが使えるいのちなのだから。この時間という「いのち」をどう使うかをよく考えてほしい。自分のいのちを自分のためだけに使うのではなくに、誰かのために自分の時間を使う。

『あなたの時間にいのちをふきこめば、その時間は生きてくる。』

この言葉を覚えてほしいと思っているのです。

授業では・・・

自分の命は「与えられた命。これからは生きることをゆるされた第二の人生」と言う日野原先生が、大切な人生を「自分のためではなく、自分以外のことのためにささげたい」と考えたわけを、みんなで話し合いました。

- ・自分のようなつらい思いをしてほしくないから。
- ・誰かのために何かできるとうれしいから。
- ・命を大切にしてほしいから。
- ・時間を大事に使いたいと思ったから。

子どもたちのふり返りより

- ・今まで以上に家族と過ごす時間を大切にしていきたいと思った。
- ・思い出をたくさん作りたい。
- ・後悔しないようにせいいっぱいがんばりたい。
- ・命や時間が大切なものであると知って、生きていきたい。

4年生である子どもたちにとって、日野原先生のように、誰かのために寄付や活動をするということはまだ考えにくいところだと思います。しかし、時間は限られるものであることを改めて感じ、自分たちなりにどう生きていきたいかを考える時間をもつことができました。